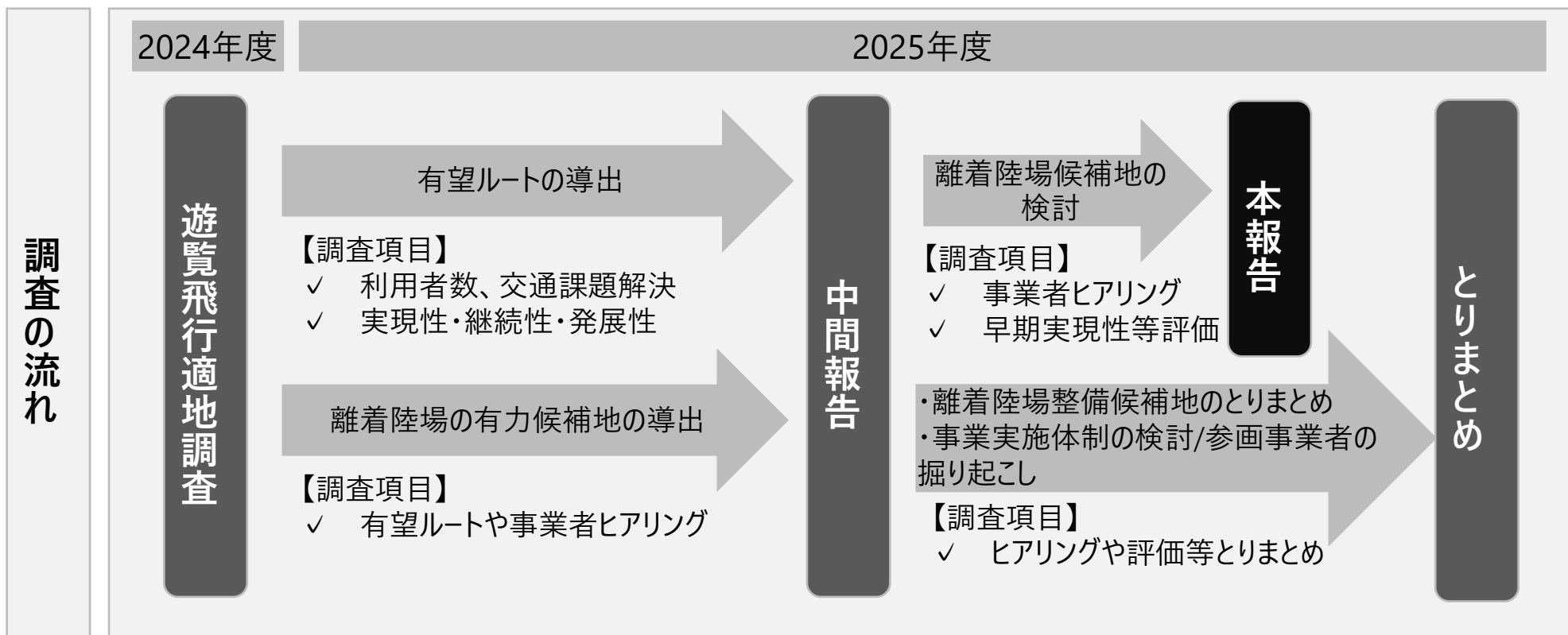


あいちモビリティイノベーションプロジェクト
「空と道がつながる愛知モデル 2030」
eVTOL（空飛ぶクルマ）の離着陸場整備候補地について

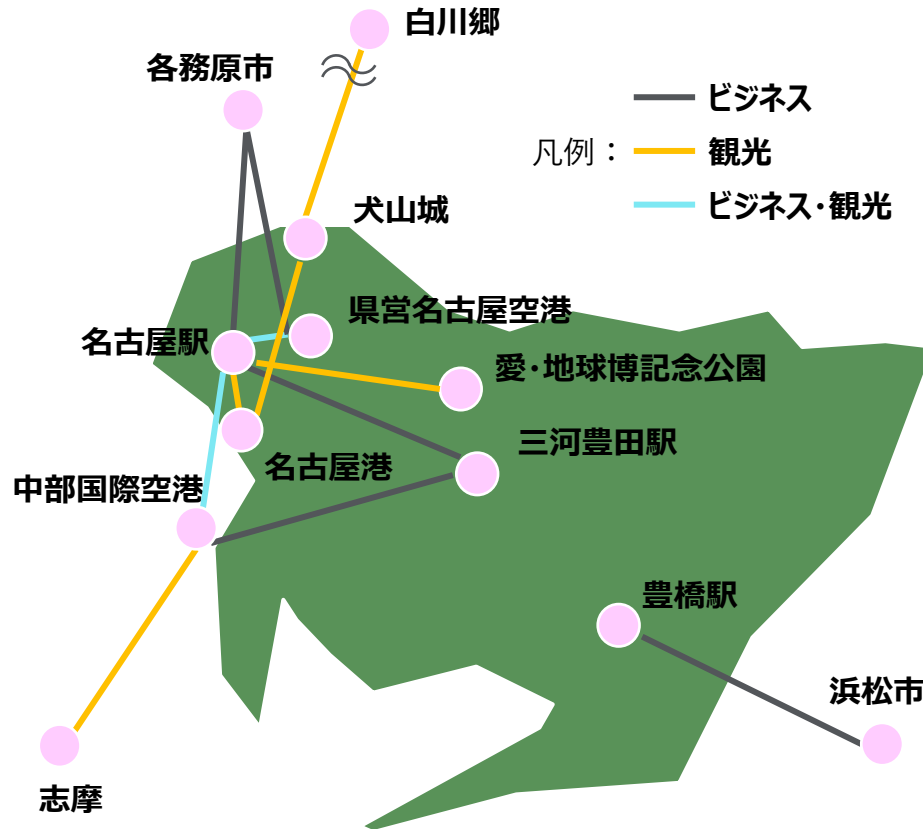
令和 8 年 1 月

- eVTOLの社会実装に向け、実装最初期の離着陸場として、遊覧飛行と二地点間移動（エアタクシー）の中心となる拠点を両立できる離着陸場の先行的な設置を検討。
- 2024年度は、eVTOLの遊覧飛行の適地調査を実施し、「愛・地球博記念公園」「名古屋城」「名古屋港」エリアを有力候補地として公表。2025年度第5回PTでの中間報告では、二地点間の移動の有望ルートを洗い出すとともに、二地点間移動のハブ拠点となる離着陸場候補地を導出することとし、本報告では、中間報告をもとに、事業者ヒアリングや早期実現性等の評価を踏まえ、県として先行的に検討を進める離着陸場候補地についてとりまとめ。



eVTOLの二地点間移動の検討(エアタクシーの有望ルート)

- 利用者数が見込めかつ既存交通課題を解決できるルートを導出した上で、実現性(ルート実現に必要な協力が得られる)、継続性(一過性でなく、持続可能な需要が見込める)、発展性(ルートやサービスの拡張が見込める)の3つの観点を加え、有望ルートを導出。
- 名古屋駅、中部国際空港、県営名古屋空港、名古屋港は県外・国外からの玄関口であり、ビジネス・観光需要の観点から多数の有望ルートの起点となっている。



■有望ルート導出結果

➤ ビジネス・観光需要

名古屋駅-県営名古屋空港ルート、名古屋駅-中部国際空港ルートは、空と陸の玄関口を結び、移動時間短縮を図る多くの利用者数が見込まれる。

➤ ビジネス需要

企業集積地である三河豊田駅、各務原市、浜松市を結ぶルートは、1年を通じたビジネス需要が見込め、既存交通手段と比較して移動時間の短縮効果が大い。

➤ 観光需要

犬山城、白川郷、志摩、名古屋港、愛・地球博記念公園といった有力観光地へ、大幅な移動時間の短縮が見込まれるルートが導出されている。

二地点間移動のハブ拠点となる離着陸場候補地

- 有望ルートの導出結果を踏まえると、陸海空の玄関口である「県営名古屋空港」、「中部国際空港」、「名古屋駅」、「名古屋港」は、いずれも移動需要が望め、二地点間移動のハブ拠点の役割を担える候補地として考えられる。

離着陸場候補地	エアタクシーの移動需要
県営 名古屋空港	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 名古屋駅(ビジネス・観光需要) (多くの利用者数が見込め、ハイヤーによるビジネス客輸送/空港バスの代替による移動時間短縮(30分→3分)が可能) ✓ 岐阜県各務原市(ビジネス需要) (航空機産業の集積地へ乗換えなし/渋滞を回避した移動時間の短縮(45分→5分)が可能)
中部 国際空港	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 名古屋駅(ビジネス・観光需要) (多くの利用者数が見込め、交通ハブ間を移動するビジネス客・観光客の移動時間の短縮(28分→9.5分)が可能) ✓ 三河豊田駅(ビジネス需要) (自動車産業の集積地へ乗換えなし/渋滞を回避した移動時間の短縮(60分→10分)が可能) ✓ 三重県伊勢志摩地域(観光需要) (陸路を経ない移動時間の短縮(165分→17分)が可能)
名古屋駅	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 三河豊田駅(ビジネス需要) (多くの利用者が見込め、自動車産業の集積地へ乗換えなし/渋滞を回避した移動時間の短縮(47.5分→7.5分)が可能) ✓ 岐阜県各務原市(ビジネス需要) (多くの利用者数が見込め、航空機産業の集積地への乗換えなし/渋滞を回避した移動時間の短縮(47.5分→7分)が可能) ✓ 愛・地球博記念公園(観光需要) (多くの利用者数が見込め、観光地へ移動時間の短縮(30分→5分)が可能) ✓ 県営名古屋空港 (再掲) ✓ 中部国際空港 (再掲)
名古屋港	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 名古屋駅(観光需要) (多くの利用者数が見込め、観光地へ移動時間の短縮(28分→2.5分)が可能) ✓ 犬山城(観光需要) (観光地へ移動時間の短縮(60分→9分)が可能)

eVTOLの離着陸場整備候補地について

- 「県営名古屋空港」、「中部国際空港」、「名古屋駅」、「名古屋港」の4つの候補地のうち、国が社会実装初期の離着陸場候補地のひとつとして空港を想定していることや、既存施設を有効に活用できることから、「中部国際空港」、「県営名古屋空港」が先行整備場所として有力。
- 中でも、「県営名古屋空港」は、県において主体的に整備が可能であること、ターミナルビルにeVTOLやドローンの機体メーカーの開発拠点があることから、社会実装を先導する拠点として、2028年度を目途に、県において充電設備等の整備を進めていく。
- なお、社会実装初期においては、eVTOLに対する社会受容性の向上が不可欠であり、隣接する「あいち航空ミュージアム」との連携も図りながら、eVTOL実機を活用した社会受容性を高めるイベント等の検討も行っていく。
- 将来的には、eVTOLによる商用運航サービスを実現するとともに、県営名古屋空港及び周辺地域を次世代空モビリティ産業拠点としていくための企業誘致等の地域活性化を図っていく。

県営名古屋空港



あいち航空ミュージアム



2025年度		2026年度	2027年度	2028年度
第6回PT 整備候補地公表	整備場所検討	調査・設計	工事	開運 始用
	事業実施体制構築			

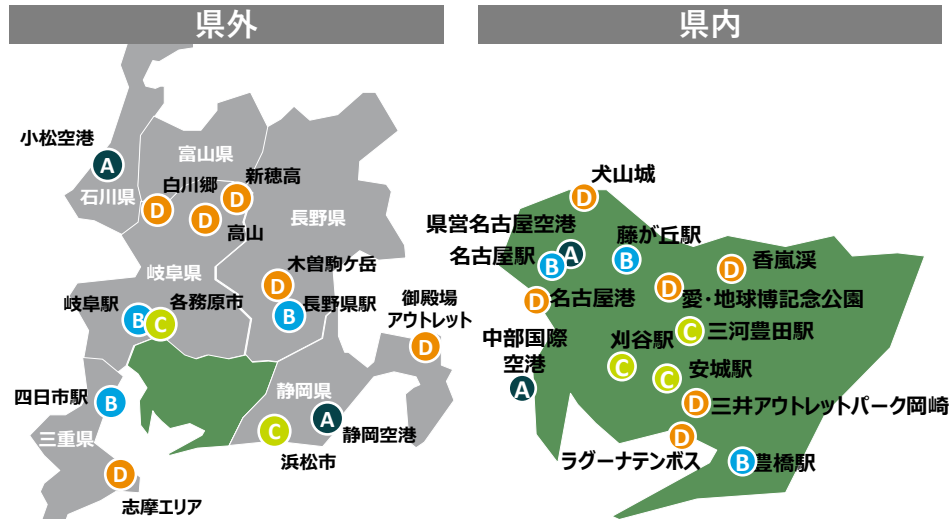
(参考) 二地点間移動の有望ルートの導出について

- 各拠点間のルートの組合せを検討する上で、愛知県内の中心部を往来の結節点とし、県内・県外ごとの組み合わせ方を整理。各拠点ごとの特性を踏まえ定量的・定性的に評価しました。
- 選定したスポット間の移動ルートに対して、航続可能距離などの前提条件で絞り込みを行い、さらに評価基準に基づく分析によって、有望ルート候補の定量的な評価を行います。

各拠点におけるスポット抽出の観点



県内外の抽出スポット



隣接エリアは交通結節点・企業の集積地を主とし、加えて、観光地を追加抽出

県内においては、中心部を交通結節点がカバーし、それ以外のエリアは企業集積地・観光地によって補完している

有望ルートの定義

既存の交通課題（移動時間、手間など）を解消し、利用者数が見込めるルート

航続距離に鑑みた際に飛行可能なルートであること

- 1 2地点間の距離による絞り込み
(航続可能な距離・巡航状態へ移行する最低距離を考慮)

利用者数が見込めること

- 2 2地点間の移動者数の評価
- 3 2地点間の推定された移動者内での所得水準による利用率の評価

既存交通課題を解決出来ること

- 4 2地点間の既存交通手段における課題の評価
(移動時間・乗り換え回数を考慮)

(参考) 二地点間移動の有望ルート調査 (第5回PT公表)

- 二地点間移動の有望ルートについて、利用者数が見込めかつ既存交通課題を解決できるルートを導出した上で、(ア) 実現性、(イ) 継続性、(ウ) 発展性の3つの観点を加え、有望ルートを導出した。
- 県外・国外からの玄関口である「名古屋駅」「中部国際空港」「県営名古屋空港」「名古屋港」は、ビジネス・観光需要の観点から多数の有望ルートの起点となっている。

eVTOLの交通網 社会実装の初期段階において重要な要素 (仮説)				
(ア) 実現性		(イ) 継続性		(ウ) 発展性
定義 ルート実現に必要な協力 や体制が得られること		一過性でなく、持続可能 な需要が見込めること		ルートやサービスの拡張が見込める こと
観点 ・運用事業者への意 欲がある企業 ・県管理の土地等の 活用しやすい環境		・季節変動性が低く、年 間を通して安定的な往 来需要が見込めるビジ ネス利用		・隣県自治体にお ける空クル社会 実装への取組 ・広域観光圏 への接続
有望 ルート 名古屋駅－ 県営名古屋空港		三河豊田駅－ 名古屋駅 /中部国際空港		志摩－ 中部国際空港 各務原市 －名古屋駅 /県営名古屋空港 浜松市－ 豊橋駅 犬山城－ 白川郷
有望と見込める要 因例 ・名古屋駅は、名古屋商 工会議所が「名駅「スー パーモビリティハブ」構 想」を提言、名古屋鉄道 が次世代エアモビリティ の活用に向けたポート整 備を検討 ・空港までハイヤー移動 しているルートは移動時 間短縮効果が見込めるた め有望と考えられる。		・県の主力産業の中心で ある自動車メカの本社・ 関連事業所がある三河 豊田駅は、継続的なビジ ネス利用が期待できる。 ・名古屋駅と結ぶルート は、ビジネス利用におけ る人流量の上位のため、 継続性が高いルートと考 えられる。		・「昇竜道」が外国人観 光客に人気、犬山城－ 白川郷ルートも含まれる。 ・白川郷エリアではヘリ コプター遊覧飛行が行わ れており、親和性が見込 める。

【二地点間移動 (エアタクシー) の有望ルート】

